

## 2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 22 日作成)

小委員会名	建築気象条件検討小委委員会		主 査 名：中山 哲士 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：岩田利枝 主 査 名：秋元孝之
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	(1) 環境建築に対応した気象データの整備と開発 (2) 気象データの活用と問題点の整理 (3) 異常気象への対応 2017 度： 国内外での環境建築に対応するために必要な気象データの整理 気象データ活用の実態と問題点の整理 境界条件として影響を及ぼす建築周辺微気候の検討 異常気象の実態と建築への影響についての調査		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：中山哲士 (岡山理科大学) 幹事：森太郎 (北海道大学) 委員：赤坂裕 (鹿児島大学/気象データシステム)、荒井良延 (鹿島建設)、井川憲男 (大阪市立大学)、永村一雄 (大阪市立大学)、菊池卓郎 (竹中工務店)、木下泰斗 (日本板硝子)、窪田真樹 (有明高専)、齊藤孝一郎 (YKK AP)、武田和大 (鹿児島高専)、二宮秀興 (鹿児島大学)、福留伸高 (東京工芸大学)、細淵勇人 (愛知工業大学)、松本真一 (秋田県立大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2017 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	4 回の小委員会 (第 4 回は 2018/3/24 開催予定) を開催し、幅広い情報交換と討議を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	特になし

## 2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>建築気象条件検討小委委員会を4回開催（第4回を2018/3/24開催予定）した。地球規模での気候変動や、都市域でのヒートアイランド現象に代表される温暖化、近年頻繁に起こる異常気象など、建築を取り巻く気象条が変化していく中、求められる気象条件（気象要素）も時代とともに変化している。拡張アメダス気象データに代表される継続的な気象データの活用、新たな気象要素データの整備、異常気象への対応、境界条件としての建築気象の影響などを検討しており、本年度は特に以下の点に着目して議論を実施した。</p> <p>■国内外での環境建築に対応するために必要な気象データの整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンガポール、マレーシアでの気象データの収集とデータ解析。東南アジア地域での環境建築対応へ向けての検討を行った。</li> <li>・簡易通風乾湿計による低コスト観測システムの評価。</li> </ul> <p>■気象データ活用の実態と問題点の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年版拡張アメダス気象データの開発を終了し、その特性についての検討を行った。東京地点での低湿度化の実態などが明らかとなった。</li> <li>・EPWデータ、1分値データへの対応。</li> <li>・ClimateConsultant(UCLA)による気象データの活用方法の日本適用に向けた検討。</li> </ul> <p>■境界条件として影響を及ぼす建築周辺微気候の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GISデータと気象データを利用した建物周辺日射量分布の検討。都市街路空間の快適性評価。</li> <li>・天空画像から天空輝度分布を推定する手法についての検討。</li> </ul> <p>■異常気象の実態と建築への影響についての調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象データにおける代表年及び極端年の選択法に関する研究</li> </ul>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。